

地域協働学校だより

令和7年11月6日

第7号

新宿区立市谷小学校

地域協働学校運営協議会

市谷小学校の今昔話

今年度で開校120周年を迎える市谷小学校です。今ではPCやスマートフォンが私達の生活の中で当たり前になり、学校の授業にタブレット端末が導入され、最近ではAI（人工知能）に大きな注目が集まる時代になっています。そのような状況にもかかわらず、いつの時代にも小学校には未来に夢と希望をもった子どもたちの笑顔と笑い声が溢れ、そして将来に向けて知識の金庫に情報を日々アップデートしていたと思います。そこで今回6年生の「市谷小学校の歴史を学ぼう」の授業に開校60周年を体験した卒業生12名の皆様のご協力を得て、60年前の学校の様子、放課後や長期休業中の出来事及びまちの様子や流行などのお話を聞かせていただきました。小学校の卒業アルバムや当時の教科書も見せていただきながら、貴重なお話をたくさんいただくことができました。その一部を抜粋してご紹介させていただきます。

○昔は全校児童が黄色い帽子だった。

○児童用の下駄箱があった。

○昔はチョークで書く黒板だった。黒板消し係がいて、消す時に顔や手、洋服に粉がよく付いた。

○給食に脱脂粉乳が出ていた。嫌いな人が多かった。代わりに飲んでくれる友達がいた。

○ランドセルの色が赤か黒のみだった。

○学校にもう1つ小さなプールがあり、全部で2つのプールがあった。



○今のうんていの辺りに砂場があった、卒業記念に砂場のゴミ等を拾い分け、きれいにした。

○夏休みに校庭で映画鑑賞会があった。

○夏休みの宿題のために新聞屋で記事を読ませてもらい、書き上げた。

○町には「御用聞き」がいて、家庭に訪問し、注文品を持って来てくれた。

○東五軒町には「御茶屋」あり、きれいな芸者さんが着物を着て、たくさん歩いている中を登校した。

○自転車で牛乳を配達する人がいた。

などです。

多くのお話の中でも、特に6年生の好奇心を駆り立てたのが「ガリ版」のようでした。鉄筆でロウ原紙に文字を刻みインクをローラーで転写して印刷すること及び現在の印刷機のように一度に何枚も印刷できず手間のかかる作業があることに驚いていました。12名の卒業生の皆様も懐かしくなど、色褪せない思い出話時が戻ったのではないのでしょうか…。授業中は子どもたちとの笑い声もたくさん聞こえてきました。そして、子どもたちの記憶の中にも今日の体験がはっきりと刻まれ、やがて未来の市谷小学校で話す日が来るかもしれないと思いました。素晴らしい時間をありがとうございました。

